

来月から販売開始

業のき工
木山

福島市の企業と山形大、福島市産業交流プラザの産学官連携により確立された、工場排水のフッ素化合物を処理する新システムが十一月から販売される。県内では山木工業（いわき市）が販売会社となる。

システムは「ネオフィット」と呼ばれるイオン捕集剤を使う。排水の中に含まれるフッ素化合物の濃度を、国の新しい排出基準値の8ppm以下、環境基準値の0.8ppm以下に減らすこと

ができるという。汚泥の発生量も少ない。東北交



発売を報告する（右から）志賀社長、本多社長、藤田社長

新フッ素処理剤販売

東北交易が共同開発、来月から

水質汚濁防止法改正で厳格化する工場の排水基準をにらみ産業廃棄物中間処理業の東北交易（福島市、本多勉社長）が山形大と共同開発した新しいフッ素処理剤が、十一月から東北、北

事業展開を話す（左から）本多社長、志賀社長、藤田社長

易（福島市）が研究開発に加わり、富士技研化学（同）が総販売元となった。山木工業は本県のほか宮城、茨城両県でも販売を担当する。問い合わせは山木工業 電話0246（23）1301へ。

山木工業の志賀耕三郎社長、東北交易の本多勉社長、富士技研化学の藤田光昭社長は二十四日、システム発売あいさつで福島民報社を訪れた。三人は「優れた効果で捕集剤も安定供給できる。すでに大手も含め多くの企業から問い合わせがある」と話した。山木工業の草野正広土木第一工事部長が同行した。

関東を中心に販売される。

商品名は「ネオフィット」。本県と宮城、茨城の各県では山木工業（いわき市、志賀耕三郎社長）が代理店となり販売と汚水処理の技術指導を行う。東北の他県などでも代理店が決定。フッ酸を洗浄剤として使用するガラス工場、半導体工場などへの販売を見込む。

製品は、堺化学工業（大阪府）に生産を受託。東北交易などが立ち上げた新会社、富士技研化学（福島市、藤田

光昭社長）が総卸元となる。

ネオフィットは、汚水の中のフッ化物イオンと結合する力（捕集力）の強いチタン化合物が主原料。東北交易によると、フッ素濃度が100ppm以下の中低濃度の汚水を処理する場合、処理剤に使われているカルシウム（生石灰）に比べ、汚泥発生量が少ないことなどから、少ない処理コストで新しい排水基準に対応できる。

フッ素の排水基準は法改正により来年六月、現行の

一五ppmから八ppmに引き下げられ、都道府県によってはより厳しい上乘せ基準を施行する動きもある。

本多東北交易社長と志賀山木工業社長、藤田富士技研化学社長は「環境対策に関心があった。この技術で、法改正で難しい対応を余儀なくされる中小企業の役に立てば」と話している。

問い合わせは富士技研化学（電話024・591・3566）、山木工業（電話0246（23）1301）へ。

